

## 令和7年度 厚生委員会行政視察 事前勉強会資料

### ①10/28(火)午後 【豊島区】

視察項目	こどもの居場所づくり(中高生センタージャンプ)
視察項目の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・中高生センタージャンプは、主な利用対象者を中高生等とした児童館。豊島区では現在2か所を運営(東池袋・長崎)。</li><li>・視察先(東池袋)は、児童館の再編に伴い、地域の中高生が安心して過ごせる「第三の居場所」として2007年(平成19年)に設立。</li><li>・中高生向けの居場所について学び、今後の本市におけるこども・若者の居場所づくりに役立てる。</li></ul>
視察項目に関する本市の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度、本市と地方自治研究機構の共同によるこどもの居場所に関する調査研究において、家・学校・職場以外の第三の居場所を有していないこどもが全世代で一定数存在しており、特に15歳以上の若者についてはその割</li></ul>

	<p>合が高い結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・こどもの健やかな成長に向けて、安全安心な居場所の充実が必要。</li></ul>
視察のポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・施設の概要(開設に至るまでの経緯、制度設計、運営体制)について</li><li>・利用状況(利用者像、活動内容、運営スタッフのかかわり)について</li><li>・中高生の主体性を尊重する運営方法について</li><li>・施設設置の効果・運営の課題について(利用者の感想、アンケート結果、要望等を含めて)</li></ul>

②10/29(水)午後 【山形市】

視察項目	山形市聴こえくつきり事業について
視察項目の概要	山形市では令和4年12月より、大学、医師会、言語聴覚士会、補聴器販売店協会等の医・産・学・官が連携した「山形市聴こえくつきり事業」を実施している。この取組は、普及啓発、早期発見(アプリを活用)、補聴器相談医による診察や補聴器購入支援、データ分析をパッケージ化したもので、その効果やノウハウを学ぶ。
視察項目に関する本市の現状・課題	本市では令和7年1月より、「聞こえのチェックリスト」を作成し、地域包括支援センターを通じ配布することで、難聴が認知機能に与える影響についての注意喚起に取り組むとともに、早期の受診勧奨につなげている。
視察のポイント	本事業の導入の経緯、パッケージ化にあたってのメリットやデメリット